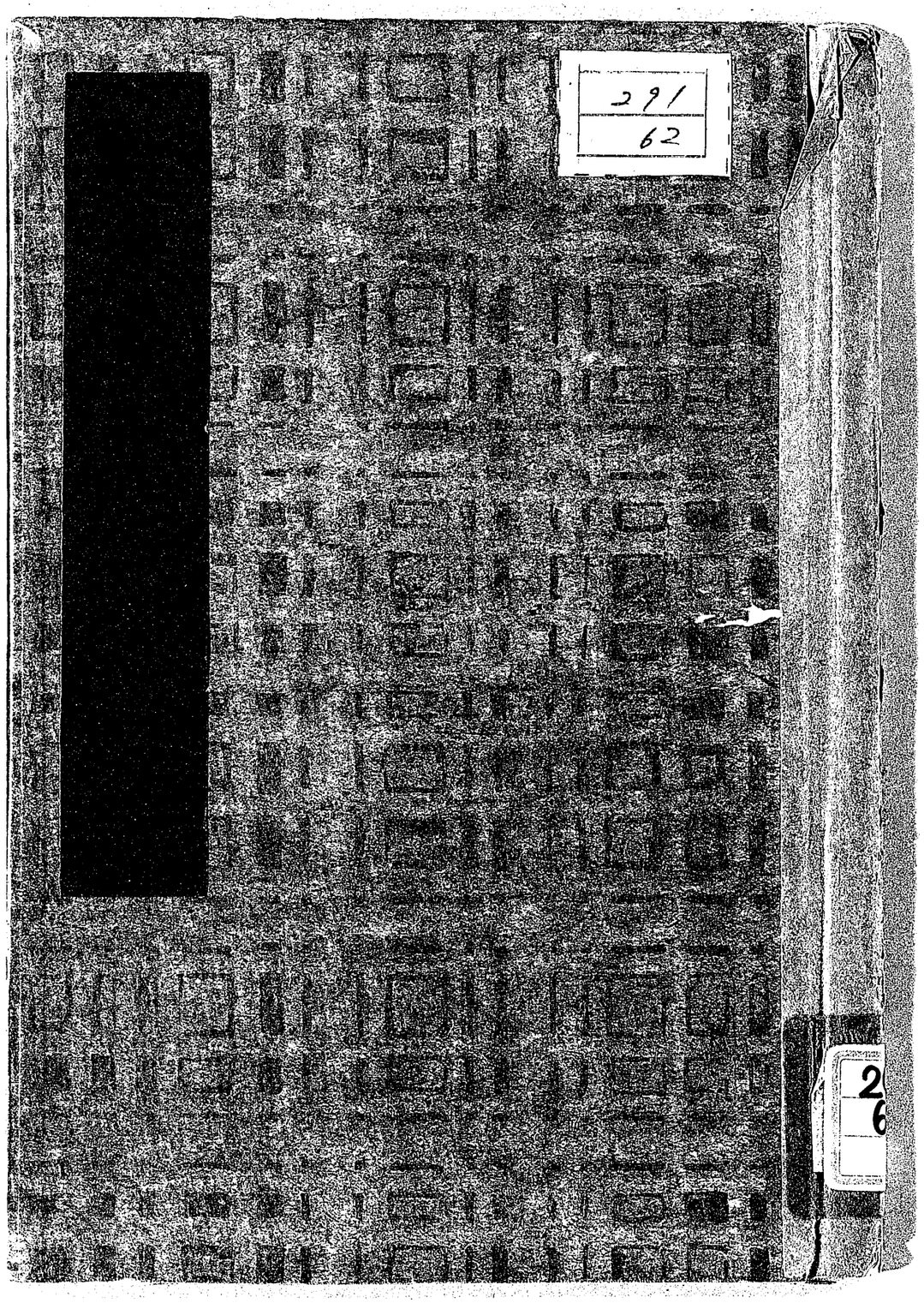


県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 03988

紀州高山記

県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 03988

291
62
1

紀州畠山記

中根七郎氏寄贈

目次
一 在田郡石垣鳥屋城 京高城 宮原城 岩屋城 之事
二 湯浅城之守の事
三 畠山基国公紀州領地を領給の事
四 京家城 [illegible] 刑部 日ヶ谷城
五 河内高野城 岩屋城 城を取に成る事
六 松永信貴山城を取 [illegible] 抑留する事
七 三好山城守 [illegible] 畠山を討たんとする事
八 日ヶ谷山城主湯川玄蕃頭 [illegible] 事
九 湯川玄蕃 [illegible] 焼討する事
十 畠山三ヶ所の軍勢の事
十一 鳥屋城主 宮家城主
十二 畠山大将分れ
連判 法名

古座高校図書館
3988

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03988

在田郡石垣、烏屋城、廣高城、宮原岩室城之事

抑此三城は畠山右衛門督基國公の築たる城也城條は南禪寺大業和尚也（此和尚は基國公の師なり）本城は弾代と河内國高屋（こうやすり）の城主なり河内半國は畠山、半國は三好筑前守義継若江に城主なる故五畿内眼会て駐留す殊に其時は松永弾正久秀、織田信長等の大敵常に互に心掛け打取と計る甚恐敷時節なり廿頃畠山の領地は大和河内山城能登越中五ヶ國を領したり力も大名也一再るれ河内高屋の城を三好筑前守に押領せられ一族代外は在城し従初なり

湯殿掃之守の事

若し湯殿掃守と云小名有是は畠山より代代頃は人皇七十五代近衛院迄加わなり

一 延宇天養か久安年中の比と見たり其時は湯殿を岩佐と書たり

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03988

後ハ湯津と改む 其故ハ權ノ守宇重癩病を煩ふ依て高野山慈尊院の本尊弘法大師一刀三禮の靈像ハ祈誓を以て三七日祈り新食しけれは夢ト告ていわく日高郡の谷ハ新神の温泉の地有極めて熱湯也 是ハ冷水を以て澄して浴しけれハ病忽ち平癒と明ル告ル夢りけれハ權之守歡有□尋ね求浴しけれは忽病癒ぬ其事隠ル なけれハ諸人浴して病癒たり 其ノ折節 後日河法皇熊野参詣の時天聽ハ達しけれと 上皇日中湯邪の御腦在しけれハ其新神へ参詣有浴し給ハ邪腦全快在しけれハ御喜有て熱湯冷水を交へ澄くすると告給ふ依謂已後は宮佐を湯澄と改むしと勅諚ある依て湯澄權之守と名乗り夫より湯澄と書也 此時代ハ天養元年の比なれハ人今畠山は應永七年廣城を築くとあれハ畠山ハ二百七十年後也 其權ノ守ハ當所の方面原領ハ居たり 今栖原の後ろ

山田村と川向ハ城を築き居城とせり 平野城と云也 湯澄領内明神廣八幡宮も其人の勧請也 其人神佛ハ信仰の人なり 明恵上人は其人の孫也 明恵ハ父は高倉院の親者 平重内と云人也 其權ノ守の八番目の女なり 權ノ守京都六角堂ハ詣り男子を祈る 夜夢ハ人妻金顆 其夢を思ひて夢覚むよりなを孕めり 後有て分業安三年正月八日石垣村事吉原村ハ誕生有 今ハ歌来寺 其上人 真言宗 栖原村ハ福無畏寺 是屋ハ神光寺 在田八ケ所建立し 大德の上人也 父權ノ守ハ助力なられん

其遥か後 應永年中ハ畠山殿紀州領し給ふ依て御家人となり湯浅七郎兵衛宗光と号し仕へ奉ル 畠山殿没落し後 錦谷殿へ御奉公して 増外二万一町石領したりと云 畠山殿没落の後は山田平野の城を創き浪人となり湯澄の宮今の鄙法至所の小屋 例ハ其の居城門の

姉と云所有場塚殿の墓碑といふ碑所ハ緑類の人見なし　長田崎山氏の系図
ハ場淡路守の墓有と云ふ

畠山左国公紀伊泉州を領地ハ給ふ事

此時の天下は武家将軍左院大臣公方義満公と申奉る
于時明徳年中比大内左京大夫義弘といふ大名有周防長門石州豊
前四ヶ国を□なる上る又此度紀伊泉州を給て六ヶ国を大守たり無子
此義弘殿大ハ奢を極め館を築業の位ハ移し居所を堺所なく強
自然と公儀の奢分を等閑なせられけれは将軍公方の御怒ハ給て
此義弘を討亡さんと思大将を畠山左国公ハ仰せ付られたり左
国公大軍を引率して泉州ハ出陣して戦ハ給ひ義弘公を討取け
れも堺殿奢侈と紀州泉州を下されたり元来畠山の領地ハ河内守
国大和山城摂津　地中を五ヶ国の領主なるハ又紀泉両国ハ下たれは

七ヶ国の大主也依之畠山左国公ハ泉州大野を城へ入部ハ成たり夫
より紀州在田を内ハ結き土地を見立城を仕築と思召て有田石
垣鳥屋城を築給ふ夫より野村
城と名付る鳥屋城ハハ畠山左京殿ハ府七郎左国を守らせ自身ハ野
高城ハ居給ふ又岩原岩室城有隠居城と一給ふ

大至城跡図
白山社前ニ在
ニ[illegible]

○廣芳城ハ今ハ一世ハ名跡村表地ハ西ハ[illegible]
○堺天守南北十三間　東西十三間
○三ノ櫓　南表七間四方　東表七間ニ六間
　　北十二間ニ六間　西表五間ニ四間
○三ノ櫓　南七間ニ四間　西八間ニ五間
　　北十四間ニ十一間
○四ノ櫓　南十間ニ五間　北八間ニ七間　西八間ニ三間
○五ノ櫓　南十四間ニ十間
○堺庄ハ三ノ丸ニ間　五十間ニ九間

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03988

○二ノ丸　切岸　外向　深サ　二間

○東切岸　十九間半　八間　　西十二間　六間

此外平地通路多く有之候

此時分は日本国中騒動の時也　大名一時休する思の如き柳橋也　先畠山をねらふは三好筑前守松永弾正久秀織田上總ノ助信長　信長の事ハ安房守と云あり其娘を秀妹として畠山方政也終ハ信長ハ亡ぶる三つ巴の故敵を先ハ悟り立入り

又日当都ハ湯川直春先山の城を攻る

鬼ヶ城ハ深刻山城守有部ハ高田城主野遍彈正忠と云あり

其外八左衛門と者有

是要害ハ在田ハ城を家重ハ築たりとあり

文安四年出徒横行して下ル難儀ハ及ぶ故ハ京都分方ハ達しけれは通治ス為ハ宇都宮信濃守宗嚴ハ通二千餘騎を八鬼山陣ハ毎日出徒を尋ハ加せしを多年案内を知りたる者なれは尋得

十四月十三日俄ハ軍を起し宇都宮を四方より取巻責ける故ハ宇都宮敗走して畠山ハ引取ハ陣を取る十八日早速京都ハ注進しけれは畠山二代将軍分ハ通して驚ハ早速ハ京都を立て其日果部堺近所着被成三千五百騎と勢を以て廿一日堺を立て宇治井田山ハ敵ハ十六人を召捕ハ首ハ取る事十二人也勝時をあけて其日宇都井田ハ陣を度ハ儒ハ公所喜限りなく廿二日夜ハ又八鬼山の出徒を討取らんと二千五百の勢を以て所敵の事有て首を取る事百ハ捨首有り斬て廿三日吉川刑部ハ亟が疑りを解る所治りて廿五日紀州島屋城ハ入給ふ此度の先徒の後本ハ橋本

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03988

八郎 飯川十郎 田子六郎左衛門等首討取りさらすとみり 武士の誉人也

河内古市本城高屋城を取られる事

畠山政長公河内渋川左衛寺の合戦に御 将細川政元 義豊を為る本城高屋城を取られる 政長公生害 畠山 ト山公も腹切 外 城に引籠る 畠山 ト山と申す 政長の子息尚慶公 ハ道 ト山と申す 大名 将也 此尚慶公ト山は明應八年に 政長公の十七回忌に 賞 弾 訪の為大軍を引率して河内の国に出て 弾 顔 総 外 義豊を討取 古市 高屋 城を取巻て 給る 大 ト山の 弟子 勘解由 尚長公を 高屋 の城に 守らせ 弟自身は 城へ隠居 給 弟在 城四十一年也

松永弾正 高屋 城を取られと 押 寄する事

元亀四年 天正と改元 松永久秀 三千 餘 弟 を河内 高屋 畠山の城を 永

らんとす 畠山 宮政公 西 之 松永を 繼 敗らさんと 之陣 を 岡 左 為 府 用防と助 二陣 神保山城 守 四千 六十騎 交 弾 と城 より 打 て 出 取 ける 打 永 兄 と 望 及 三田 弟 と 角田 討 死 し 外 も 残 兵 皆 敗 さ れ 引 取 ける を 追討 て 首 取 る 事 百十 首 あり 安見が手 と 打 取 る 首 と 都 て 四百五十 首 也 味方 を 五十 七騎 討 る 宮政公 交望 の 城 へ 入 らせられ 士卒 夫 に 勇 功 を 賞 し 給 ひ 八日 紀 刑 る 引 せらる

三好 紀 刑 寺 弟 宗 休 斎 畠山を 討たんとする事

三好長慶か 弟 入道 宗 休 斎 宗 和 日 し 城を造作して 大軍を以 新 買 自身 は 堺 と 御 る 陣 を 取 る 此 様 子 を 畠山の 泉 河内の 御陣 より 頻 り に 法 進 有 ける 宮政公 今度 も 大 切 事 軍 なり と 大軍を以て 三 城 を 討取 らんと 集め 給 ひ 群 勢 都て 二万 千 四百騎 大 望 の 城へ 群 集 す 泉 河 大 堺 也 畠山 大 野 の 城 は 遊 佐 勘解由 る 与力 等 を 付 られ 十九日

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03988

市之丞の知の刻より戈合あり三好を後詰として堺の南より打出る山後の
右京之進長房 三好筑前守一万六千余騎泉州久米田の陣を取る岸
和田の城は城内を分ち給ひ亂軍と成大将宮休斎は根来左京実友
る討たり部首を取ること九二千餘り味方も二百餘討たる畠山方政
公は大ゐ利運を喜び各士卒の勤功を賞し御褒美感状被下紀州へ
引取給ふ

日高丸山城主湯川兵春最期の事

日高郡丸山の城主湯川刑部太夫兵春殿人は畠山より前に在り城
を取れとも畠山紀州を頼り給ふ依て自ら家臣と成 城主湯川兵春は
守護の聟也兵春の父は畠山宮内少輔也湯川改春 ト山公の三男紀州
の養子也然れとト山公の重縁の人也 改春不行跡なる国
政に相背く事多かりけれとト山公より堀退去の依申付たり依之兵
春城を立隠(退)き一族田島城主湯川左馬頭南部高田城主湯川遠

六郎左衛門 上望城主湯川兵部等是等い皆一族なれは城退
へ退き時節を待て怨を報せんと計る

湯川兵春城を焼討る立る事

扨湯川兵春は一族をかたらひ各密謀をめくらし遊佐河内守長政
畠山義宗の遺 を大将として屋宮城を立ん城内へ忍の者を遣し
佐竹別二也
火を掛けんとし又通る道筋なる伏勢を所々に望中時を計り
線路を上て井を掛る城内なる何と心得ておく小債勝は私の軍おれば大
る仰天し周章驚き敵人とする和 義手城を火を掛る演会頻
り叫ぶけれを一時に煙上るト山公も是程なく船を仕立て淡路へ
落給ひ 淡路の兵明寺へ入らせられ根鶏と給ふ新宮病義
る取結ひ間もなく後世を弔ひ給ふ 法名 瑞竜
隋る郎種長公尚長公い新宮河内屋城に在り法遁を同り

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03988

枝葉に接する思法ありこれより後世

一説に曰く伊勢氏一族思法師の領地の下河内村三郎右衛門太郎左衛門を召捕へ誅戮す此時三郎三好軍事多けれども急き坂本城内居屋の城へ帰り後に廣城を焼失して宮城と成れ共居屋城容堂城に金難也

畠山氏に後日信忠の為に亡ぼされしと云ふ如何

其後天正五年織田信忠と寄み畠山七郎徐之場川家新を頼るとも相違なく和義を以て饗應せん大和郡山に居られ大和奉長太閤殿下の家老に接りて毒害せらる幾日九月直後の日時の毒害せらる法名宗岩浄照大禅定門子息丹後守浪人と云ふ

畠山三ッ松公義元の事

畠山家断絶の時也

コノ項実伝ニアラズ

三ッ松感状奇と申す義宣公の次事也前城主修長公の実子なり

ト山公の次孫なり然れ共三ッ松殿と申す也天正五年十月畠山昭宣公義元三ッ松殿信長と親を断つ是は一旦信長より城を畠山遣一揆と称たれども是信長公が強計と悟る和也所岡孫太郎是を諸と敵なる心を使しめ伊丹侍故孫太郎も同心して葛城

信忠ハ信長長男ナリ

の横領する業の如く十月朔日織田の三男信忠、長岡兵部大夫藤孝、同出雲守忠興、丹羽勘助、筒井順慶等差向らる一番乗は長岡与市郎大軍を引率して打出る畠山城内より鉄砲を打掛く也花を散して我けるに城方利運を失ひ百五六十人が討死す家手も七十人許り討死す依之畠山方所岡孫太郎降参して外れ人数多きる敵敗す、三ッ松殿大きる怒り後ひ我れ家を堅め敵難を計るる甲斐なき士卒の至りなり我今思ひの為に討死せんと思神の如く其云ひ、敵陣の中へ駆寄て敵の鎧の鎧を着して一騎当千の勇を打奮

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03988

後に大軍の中に馳出る鬼神の如く変化して左右を切て捨る敵なし
軍入替て我に事なれを絶み奮戦し給ひ討死し給ひ後に昭宣公
討死し給ひけれは太田太郎、岡半右衛門、方中舟橋宗、片岡伊勢守
皆一當に討死す、其に於て舟岡彦五郎三つ松殿の作者を取る故
に須八昭宣公の作者を取り両人浅落の脇より口身悔み給ふ七日
ありて死す
依て三つ松公、昭宣公の作者前方より片岡彦太郎、遣はされ萬木
城の警護に参る
于時三宮右衛門尉朝と云人有て三つ松殿と萬て死を一つにせんと誓
約ありけれとも彼の軍に遅参せしを悔み一族廿八人籠を押立て
岡に馳来りて三つ松殿の墓の前を一列に切腹せり是武士のみさほ、
さぞかし哀れ也片岡彦太郎は萬木城に帰り参る無程死す物

東南にあらなれ墓所時々雷く哭声を見る者は病を患ひ彦
太郎か馬七度倒れ死を作太郎大きに恐れ永福寺の僧
を請ひ卜せ給へは新七の祟り也と云子細を云て三つ松八幡
宮と宮の御殿七社勧請して郷中悪を祭りけり彦太郎も宮
屋敷を建て怒霊と山の上に城を築とかや

石垣島屋敷に初め島山七郎左衛門守居たり守護は神保氏
部山城守或時は島山左馬助定綱郡内は島山伊豫守落
城の時は神保氏部少輔書義嫡子も多く討れ降参して大和に
居行天正三年三月の事なり後に家康公の作者人と成て千石給
ふ今現に徳川将軍の接ぎ也

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03988

宍原岩室城ハ畠山左衛門尤只光公守り居たり此二ケ城ハ三ケ村討死の後残り居たれとも遂ニ後太閤の討手ニ向て落城しける
とみえたり

右畠山四代の間今様成ニ記れ共只ニ申す事不遂略之

畠山大将御代之

一代 畠山右衛門督基国公
御先代も有ぬ前の御代ニ有けれとも御紀ニ入り給ふ第一代とす

二代 持国公 入道して号徳本

三代 政長公

四代 尚慶公 号卜山

五代 義宣公 三ケ村殿と云

御連枝

昭宣公

○満家公 基国の御子

○秋高公 号屋城主 出羽

○高政公 政国公の御子

○尚長公 卜山の御子也

以上

基国公御位牌 由良興国寺ニ在

昭高公御位牌 仙宮寺ニ在

政国公御位牌 岩室主 御逝去 円満寺ニ在

尚長公 ○稙長公 号東光院 御位牌 善国寺ニ在

満宣公 民部少輔 御位牌 如意寺ニ在

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03988

于時文政十三庚午七月廿二日書之

櫛形坂墓四郎原

教德寺榜律師永敬

于時慶安四辛卯七月吉之

有陽在田郡賀　山崎　英　孝所持

昭和十五年二月宮崎勝氏より借りて写す

櫛形の人「伝右衛門」なる者

芝田　常　楠

前記出口氏の手写なるかりて写之　櫛形の人

昭和十五年二月写　　宇井敬

昭和十五年三月十八日宇井敬氏の写本より謄写

中根　七郎

紀伊国守護職沿革、紀伊続風土記ニ據リ要略志ス　昭和十五年三月廿日

佐賀十郎左衛門尉義連

元寇元年鷺森宮陣ノ功ニ依リ和泉紀伊守護職ニナル（一二八四年）

守護代

佐賀太郎兵衛尉重連

湯浅七郎右衛門

浅野治

浅野長治

東勝寺ニ表元元年紀伊和泉ノ事ヲ知シテ義連卒ス後未被補其替仍後両国為院宮御領

詩歌家務事、自今以後無指事之外不可置守護人就之諸事可為仙洞御計之由

被定之トアリ考ヘ後百二十餘年ノ間守護職ヲ置カレタリ云フ（一三〇七年）

白山修理太夫国清

国司ノ執事ヲ

建武二年中紀伊国守護ヲ兼ネタル（一三三四年）道誓ト共ニ京治元年京ヲ（一三六二年）

守護ノ代

山口紀伊守頼教

守護ノ勢力ハ日ニ

郡内ニ及ブ

那賀ノ根来伝教

ハ宮ノ方ノ内カ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03988

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03988

大内左京殿左天経弘

明徳三年山名氏清ガ土州ニ入リ河三郎永行両国ヲ奪フ（三年ノ二三九ページ）

應永六年畠山基国、新渡戸殿ノ忠利ヲ討ツ、自山左京亮、新渡戸殿ノ忠利ヲ討ツ（二三九ページ）

寺社奉行

周防部大輔　（三六ページ、六三ページ）

自山左京亮佐渡国

應永六年畠山基国ノ命ニ依リ、紀伊国ヲ攻ム、紀伊国ノ住人ハ、大和ニ逃ル（一四〇ページ）

應永十二年鎮圧、其後寺領ヲ没収ス　同十三年二月十七ヲ誅

自山左京亮摂津国

管領職ニテ三国守護ニテ（一四〇ページ）

正長元年紀伊ガ伐ル（一四二ページ）

永享五年八月十九ヲ誅ス（一四三ページ）

大内左京殿左天経弘

明徳三年山名氏清ガ土州ニ入リ河三郎永行両国ヲ奪フ（三年ノ二三九ページ）

應永六年畠山基国、新渡戸殿ノ忠利ヲ討ツ、自山左京亮、新渡戸殿ノ忠利ヲ討ツ（二三九ページ）

寺社奉行

周防部大輔　（三六ページ、六三ページ）

自山左京亮佐渡国

應永六年畠山基国ノ命ニ依リ、紀伊国ヲ攻ム、紀伊国ノ住人ハ、大和ニ逃ル（一四〇ページ）

應永十二年鎮圧、其後寺領ヲ没収ス　同十三年二月十七ヲ誅

自山左京亮摂津国

管領職ニテ三国守護ニテ（一四〇ページ）

正長元年紀伊ガ伐ル（一四二ページ）

永享五年八月十九ヲ誅ス（一四三ページ）

大内左京殿左天経弘

明徳三年山名氏清ガ土州ニ入リ河三郎永行両国ヲ奪フ（三年ノ二三九ページ）

應永六年畠山基国、新渡戸殿ノ忠利ヲ討ツ、自山左京亮、新渡戸殿ノ忠利ヲ討ツ（二三九ページ）

寺社奉行

周防部大輔　（三六ページ、六三ページ）

自山左京亮佐渡国

應永六年畠山基国ノ命ニ依リ、紀伊国ヲ攻ム、紀伊国ノ住人ハ、大和ニ逃ル（一四〇ページ）

應永十二年鎮圧、其後寺領ヲ没収ス　同十三年二月十七ヲ誅

自山左京亮摂津国

管領職ニテ三国守護ニテ（一四〇ページ）

正長元年紀伊ガ伐ル（一四二ページ）

永享五年八月十九ヲ誅ス（一四三ページ）

畠山左衛門督持国

嘉吉二年管領ト成リ三国守護ト成ル（一四四二年）
享徳元年管領ヲ辞ス（一四五二年）応仁寺・徳本ト云
康正元年三月十六日卒ス（一四五五年）
持国子ナレ弟持富ヲ養子ト成ス 後持国ノ義絶ヲ生ム 家臣二分ス

畠山尾張守政長

細川勝元ノ推薦ニ依リ政長ヲ畠山嗣ト為ス 三国守護ヲ兼ネ
政長（尾州住遊佐）ハ弟勝ヲ
明應二年四月十六日 義豊ニ攻メラレテ河内正覚寺ニ拠リ自殺ス（一四九三年）

畠山彈正少弼義豊

義勝子也、三国ヲ領シ義豊寺ト云

畠山尾張守尚順

政長子ナリ紀伊ニ逃ル
明應八年正月義豊ヲ攻殺シテ又鑑ヲ根ニ三国ヲ奪還シ河内ヲ屋敷ニ定ム（一四九九年）
後細川政元ハ弟次郎左衛門ヲシテ尚順ヲ高屋ニ攻メシム 尚順紀伊ニ逃ル
宝徳ハ義豊ノ子義英ヲ河内ノ守護トナシ高屋ニ置ク
ト山（高野山）細川方ヲ破リ永正元年義英ヲ殺ス（一五〇四年）
ト山家督ヲ相長ニ譲リ自ラ堺ニ居ル
天文元年畠山在氏ヲ破ル 在氏ハ堺ニ居ル
天文三年降伏ス 在氏ハ出家シテ世ヲ去ル（一五三二年）

畠山尾張守相長

尚順ノ子也 天文七年ノ比家督ヲ受ケ高屋ニ居リ山ノ麓ニ在リ（一五三七年）
天文三年相長紀州ニ出陣シ又仇ヲ報セントス（一五三四年）
遊佐長教密ニ相長ノ弟長経ヲ主ト守護ニ擁シ相長紀州ヲ捨テ根来ニ逃ル
後畠山家臣長経ヲ殺シ相長ヲ迎フ 相長国外ニ流ル
天文十四年五月十四日卒ス（一五四五年）

畠山播磨守政国

相長ノ弟也 天文十四年継キ三国ヲ領ス（一五四五年）高屋ニ居リ
永禄元年隠居シ方政ニ譲ル（紀州ニ隠居ス）（一五五八年）

高屋城ニ居リ十七年義英自殺シ高屋城ニ入ル（一四九九年）

ト山ノ起ハ大永元年十二月十七日義英ノ子義堯ト称ス（一五二四年）

ト山ノ起ハ大永元年十二月十七日義英ノ子義堯ト称ス

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03988

畠山屋形守高政

永禄元年孫ヲ養ヲ（一五五八年）
家臣安見直政ニ逐ハル
永禄二年三好長慶直政ヲ逐ヒ方政ヲ方屋城ニ伐ル（一五五九年）
今三年長慶ノ方ニ乗ヒ長慶ニ攻メラレテ之ニ降ル三好実休方屋ヲ攻ル
今五年畠山ノ一族ニ方政ヲ擁シテ入ル方休ヲ方屋ニ攻撃ス（一五六二年）
次ヲ長慶ニ敗レ本国ニ帰治ス
長慶卒シテ三好ヒ和ス
永禄十年信長計ヲ三好義継河内半国ヲ与ヘ方政ヲ半国ヲ与ヘ方屋ニ居リ方政
政ノ弟三郎昭方ヲ家督トス（一五六八年）
守護代
安見直政
畠山立政（本系ノ代）

畠山屋形守昭高

永禄十一年家ヲ継ク（一五六八年）
同十二年迷信長ニ方政ヲ逐ヒ昭方ヲ方屋城ニ居ル（一五七九年）
元亀三年信長又昭方ヲ殺ス（一五七二年）
信長ノ信教ヲ殺ス

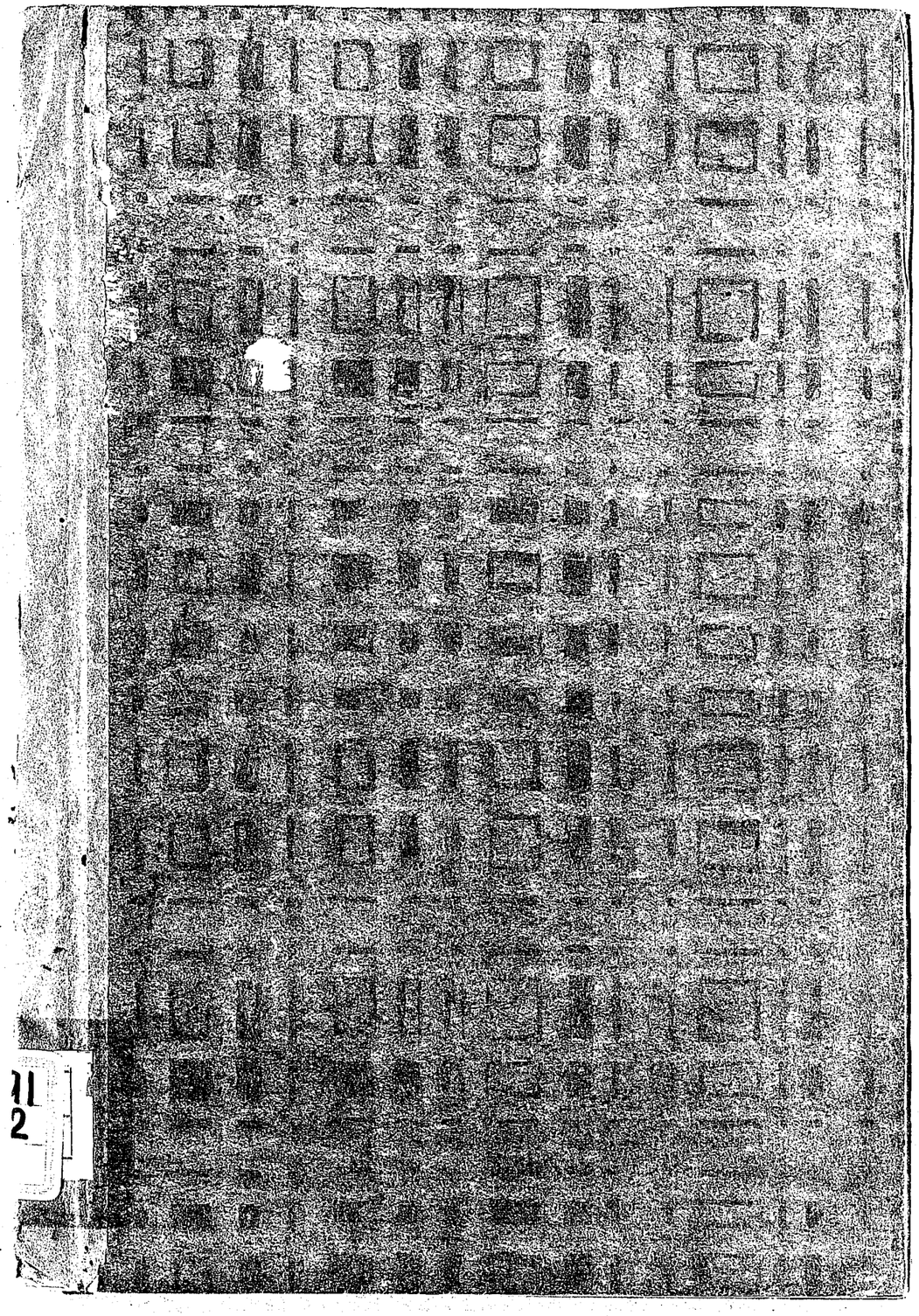
守護代ヲ廃シ陪臣

畠山左京大夫信之政

高政ノ子トモ又孫トモ在田郡ヲ領シ岩室城ニ居ル
根来、雑賀ノ徒ニ擁セラレテ信長ニ従ハズ
天正十三年秀吉岩室城ヲ攻タレメ之政降ル畠山氏亡ブ（一五八五年）

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03988

県立串本古座高校所蔵
中根文庫
資料番号 03988



県立串本古座高校所蔵　中根文庫 資料番号 03988